

14 ソノー電機工業株式会社

ロケーションベースAR技術で、
観光ガイドアプリを開発。
訪日外国人需要を取り込む



「自前技術にこだわった」と強調する請園邦雄社長

data その一でんきこうぎょう

代表者役職名・氏名／代表取締役社長・請園邦雄
設立年月日／昭和44年10月1日
住 所／〒448-0813
刈谷市小垣江町南曲15番地2
電 話／0566-21-6031
F A X／0566-23-3473
U R L／http://www.sonoh.co.jp
E-Mail／t-takao@sonoh.co.jp
資 本 金／5000万円
業 種／電気モーター・制御盤製作、
電気工事など

圏外でも利用可のガイドアプリ

ソノー電機工業の主力は電気モーターの生産。制御盤製作や電気工事などのほか、RFID(無線識別)タグといった情報処理事業も手がける。主力部門が堅調だが「変化の激しい時代。10年先を見据え、事業を育成しなければいけない」と請園邦雄社長の危機感は強い。

人工知能(AI)開発にも注力する次世代事業の一つとして取り組むのが、通信圏外でも利用できる観光情報ガイドアプリ「パチリガイド」。自社開発のロケーションベースAR(拡張現実)技術を活用したもので、対象物にスマートフォンを「向ける」「写真を撮る」という動作で、観光情報をスマホ画面上に重ねて表示できる。

アプリ開発を始めたのは5年ほど前。請園社長は「訪日外国人が増える中、紙媒体やホームページによる

観光情報が主流で動的情報を求める観光客のニーズに対応できておらず、ビジネス化のチャンスと好期と捉えた」と振り返る。

自前技術にこだわり特許も取得

一方で今回のアプリ開発は情報通信部門を持つ同社にもハードルが高かった。当初はインターネット接続を想定しており、請園社長がアプリ試験を兼ねて海外を船旅した際、国際通信契約済スマホを持参したもののインフラ未整備地域や海上などの通信圏外では情報収集ができなかった。

請園社長は「気軽に利用してもらうにはスマホのみで完結しなければいけない」と痛感したという。発想を見直す必要がある上、先行企業との差別化には独創的製品が求められた。

そこで自社情報通信部門だけでなく、最新の知見を持つクリエイターやプログラマーなどの外部人材とも積

極的に連携。独自のアルゴリズムやプログラムによる自前技術にこだわり、特許も取得したAR技術を確立した。

一方で「投げられる開発費には限界があり、時間がかかってしまう」(請園社長)課題も見えてきた。そこで同社は「平成26年度補正ものづくり・商業・サービス革新補助金」を活用し、製品化に向け本格始動した。

矢印による避難誘導システム

「訪日客が避難情報を英語で入手しづらい環境にあると感じていた」(同)こともあり、補助金を得て付加したのが避難誘導システム。全国の自治体が定めた災害時の避難所や避難場所約12万件の中からアプリユーザーの近くにある避難所・避難場所を複数表示する。距離や標高が表示され、矢印で案内するため、土地勘がない人でも逃げられる。

完成したシステムはインターネット

接続するアプリと異なり、スマホのGPS・コンパス機能で動き、インフラ未整備地域や海上などの通信圏外でも安定して使える。

さらにシステム開発と並行し、観光地を抱える受け入れ側との連携も進めた。愛知県や刈谷市、高山市、伊勢志摩コンベンション機構などの自治体・団体から賛同を得て、施設のイベントや詳細情報の提供を受けた。

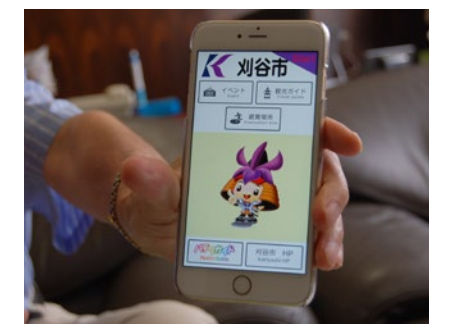
このほかにも全国の名所・古跡や町並み、河川など約2万5000件のデータを収録。文字情報は日本語、英語、中国語、韓国語など20カ国語に対応する。ユーザーがこうしたエリアに行くと自動感知し「伊勢志摩エリア」などのトップ画面となり、必要な情報を得られる仕組みを構築した。

音声や動画情報も提供へ

平成28年から2年間実施した実装テストで、観光情報を取得するのに、

必要な対象物の特定精度などを確認。関係者からは「技術的評価は得られたが、音声や動画を求める声も多かった」(同)という。

現在、同社は来春の正式発売に向け、音声や動画など、容量32ギガ以上の観光情報を自動送信できる小型発信機の開発に乗り出している。ホテルやテーマパークの施設案内、ガイドツアーなどでの利用を想定する。請園社長は「販売面で協力を得られる大手企業を開拓したい」と意気込んでいる。



個別エリアの観光ガイドやイベント情報を案内